



第一課乙部

南滿洲鐵道株式會社東京支社

第一課乙部

奉天

撫地第六四六號 大正十五年八月二十一日

撫順炭礦庶務課長

文書課長殿

通商局第三課

奉票維持ニ關スル當地ノ情況

暴落ノ底ヲ知ラサル奉天票維持策トシテ過般奉天省官憲ニ依リ
奉天票取引相場ヲ四百三十元ニ限定サレタルハ既ニ周知ノ事實
ナルカ五萬ノ華工ヲ使役シ更ニ大ナル支那市街及附屬地ヲ有
スル當地トシテハ若シ現狀ヲ持續サルルニ於テハ相當深刻ナル
影響アルヘキヲ以テ之カ成行ニ就テハ深甚ノ注意ヲ拂ヒツツア

外務省

南滿洲鐵道株式會社東京支社

今之カ當地ニ於ケル情況ヲ報告センニ
附屬地及支那街ニ於ケル洋錢賣買及ヒ兩替ハ公定相場ヲ限定シ
テヨリ取引高ハ多少減退セルヤニ見受ケラルルモ公定相場ヲ嚴
守シテハ商取引全然皆無トナルヲ以テ一般斯業者ハ公定相場ハ
只表面ノ事トシテ暗裡ニ賣買兩替者ニ對シテハ當日相場ヲ以
テ取引ヲ爲シツツアリ
然レ共此ノ事實カ支那官憲ニ摘發セララルコトアランカ嚴罰ニ
處セララルルハ免レサルトコロナルヲ以テ甚シク懸念深憂シ一般
ニ對シテハ奉天票ノ買ハ爲ス共賣ハ爲サスト稱シ又兩替ハ公定
相場以下ニテハ絕對ニ之ニ應セスト稱シツツアルヲ以テ甲兩替
店ニテハ四百八十元ノ當日相場ニテ取引セルニ乙兩替店ニテハ

公定相場ニテ爲セル等甚シキ亂調子ノ營業振ヲ示シツツアリ
當礦ニ於ケル華工ハ勞銀ハ小洋銀建ナルモ支拂ハ金ナルヲ以テ
華工ハ凡テ附屬地及支那町ニ於テ兩替店ノ手ヲ經由シテ兩替ヲ
爲シツツアルカ炭礦使役華工中臨時・請負ノ兩華工ニ對シテハ
從來ヨリ華工賃銀ハ凡テ把頭ニ對シテ支拂ビツツアルヲ以テ把
頭ハ平素ノ取引先ヨリ實際ノ相場ニテ兩替シ華工ニ對シテハ公
定相場ニテ之ヲ支給シツツアルカ如キ形跡アリ加之兩替店カ支
那官憲ヲ極度ニ恐怖セルノ結果ニ人ニヨリ兩替相場ニ高低ノ差
ヲ附シテ取引セルヲ以テ兩替スル者ノ蒙ル損若シ斯ル狀態カ將
來永續スルモノトセハ附屬地ニ於ケル經濟界ヲ混亂萎縮セシメ
更ニ數萬ノ華工生活ヲ壓迫セシムルモノトイフヘク之ニ對シテ
最善ノ方策ヲ講スヘキ事ハ刻下ノ急務ナリト思料ス

取

8052 踏 180 奉天 奉天 奉天

大正十五年八月廿二日附

中外務大臣

吉田總領事

第二四七号

往電第二四二号(圖)

張作霖、錢莊、匯兌、暴風、累次、能電、通、り、上、所、也、が、爲、の、市、場、の、極、度、の、恐、怖、の、體、を、取、引、所、の、全、く、名、を、上、り、其、出、來、高、く、如、き、上、の、四、日、の、不、降、立、の、終、り、十、六、日、の、五、〇、万、十、七、日、

二十三日、十八日、二十三日、十九日、五、十、万、
昨日、六、十、七、万、昨日、一、万、の、出、來、高、に、
十二日、以降、の、平、素、の、十、分、一、に、上、ら、ぬ、其、
大部、の、廿、八、日、受、渡、の、分、の、轉、賣、の、買、入、に、
過、り、た、り、以、て、新、規、約、定、を、取、引、所、
極、限、に、至、り、停、止、せ、ら、れ、つ、つ、ア、リ、
奉、天、相、場、の、十八、九、日、頃、迄、四、百、七、十、八、元、
見、當、り、持、續、の、后、り、た、り、強、制、公、定、相、場、
四百三十元より更に三百九十五元と昂上り

奉 票 付

ラレトモト市場恐慌観念に包マレタル事
 非ヨリ四百三十元ヲウ恐怖相場ヲ顕出シ
 度レリ加也往電算二三五字、如キ金需金控
 替也。金需交換割限並ニ金需に依ル取
 引停止等、事實アリ也等各種ノ事實
 相後ニ詳今日支商取引ヲ至極体止状態
 ニ陥入レリ也。正金銀の輸入形勢入高
 候ヲ取調カシ、郭松齡事變以後一時奉
 業相場と落着ク見エタル本年二三月候
 ニ昨年同期に比シ約二割高増加ヲ示シテ

四月以来漸次減少シ六月以降、如キ昨年
 同期に比シ僅カ三人月一ナリ
 即チ昨年四月、四九七 (單位ハ千圓以下
 同左) 五月、五八四。六月、七五五。
 七月、七五二。八月、五七六。對シ本年
 四月、四九四。五月、五二一。六月、二七四。
 七月、三五六。八月、一八七。ニテ右例年
 七月、八九月、各期任大降トシテ高騰一痛
 激極トシテ、本年人皆以本ノ取引決意ナ



米子ノ向ニ夏酒期ニナリタルニ加工率常ニ維持
ニ勤メタル日暮カ勿攸ハ遂ニ取引所ノ極限ヲ停
止シ市場ヲ威嚇ニ犠牲ヲ以テ政策キ上ケタル
金取取引ノ甚ニ確ヲスラ破壊セトシワ、アリ
トテ我ガ訪^リ織^ル其他輸入商ヲ頻ニ本官へ
隙情シワ、アリ

在支公使へ轉電セリ 哈爾濱 吉林

長春 安東 鉄嶺 遼陽 牛莊 へ略送リ

**日支の協議で
奉票對策を**
共同決議の權威で
張氏牽制の手筈

【奉天特電】廿一日發 支那の金融維持の爲め、張氏は日本に對して、日支の協議を要する事を認め、廿一日午後五時から金融維持の協議に出席する。張氏は、日支の協議は、日支の共同決議の權威で、張氏を牽制する手筈がある。張氏は、日支の協議は、日支の共同決議の權威で、張氏を牽制する手筈がある。張氏は、日支の協議は、日支の共同決議の權威で、張氏を牽制する手筈がある。

日々新聞 大正十五年八月二十二日

奉天
格

日滿貿易回復對策
支那政府に對して
金票解禁の要求
通商平衡の立場からして
我が政府より嚴重に抗議

張氏が奉天に於て、日支の協議を要する事を認め、廿一日午後五時から金融維持の協議に出席する。張氏は、日支の協議は、日支の共同決議の權威で、張氏を牽制する手筈がある。張氏は、日支の協議は、日支の共同決議の權威で、張氏を牽制する手筈がある。張氏は、日支の協議は、日支の共同決議の權威で、張氏を牽制する手筈がある。

日民新聞 大正十五年八月二十二日

奉天
格

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

奉書 (日本新聞聯合社發行)

第千九百(世)

△吉田總領事奉天西票問題に抗議

聯合通信 奉天二十一日發

奉天西票暴落に伴ふ張作霖氏の

錢莊壓迫の結果取引所は新

規取引絶無の状能心に陥り綿糸布

雜貨其他の日本貿易業者も支

那官憲が十二日以来支那商人の

現大洋金西票手持ちを林示した為め

日本商人との現物売買に当り金

西票取引を多量とするは勿論先物

取引にも契約書面に金西票で記す

事さへ肯んせざる為め商談成立せ

が一方支那官憲は奉天西票の公定

相場を限定し一日五萬元を限り

信

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本新聞聯合社發行)

第九号

總商會内で金票との交換を行つて
 むが日本商人の收受する奉天金
 票は事實上奉天票との交換する
 の道なく而も城内支那商兩替
 店は勿論小賣雜貨商に在る迄
 金票で受取ることを拒絶する有様
 で商取引は杜絶の狀能心となり一般
 日本商人の損害は甚大である。
 右に關し吉田總領事は日本商業
 會議所の調査に其邊支那側に
 并し近々
 一現大洋金票手持持示解除

RENGO TSUSHIN SERVICES
聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

竹第九号の三

二、奉天票相場限定に依る取引

上の障害を緩和

の二上を要求し、嚴重なる抗議を

なす竹第である。

八月二十一日

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

第千二百五(五)

奉案

物

△奉案問題で日本官民を招待

聯合通信 奉天二十二日發

支那側金融維持會は奉天西平

問題に關し日本側の意見を徴する

爲り昨夜廢谷會商會會議所會

頭佐藤取引所主任平野地方

事務所長河野副領事各銀行

支店長等座なる日本側官民

と招待し宴を張つたが席上廿七省

議會議長より同會の目的は現在の

奉天西平の相場を數年以前の價額

回復維持せんとするにある事及びその

奉天西平問題に對する移換あり

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

八月二十一日

日本側は單に金票手持禁止令

を撤回し日支貿易を阻害せざる

事を希望したのみで何等まともな

話もなく散會した

八月二十一日

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

五月一日

庚午四月(丑)

△日本商工團體の奉祭

対策決議

聯合通信

奉天二十三日發

奉天に於ける日本各商工團體及び
各機關の聯合緊急協議會は、今
夜迄の決議を爲し其目的を撤
爲の市民大會を開き切實な実行
策を執るべきと決めた。

決議

『奉天暴落に對する支那官憲
の狂暴なる行為は我が對滿貿易
に絶大なる支障を與へるを徹
底して』
↓
一志を以てして

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

我々が總領事の警告を注し何事
の效果なく此の際政府は速かに對
荷蒙政策を樹立すると同時に
對奉天政策を確立し現に侵襲
さしたる條約上の權利を回復す
此の危機を救済せしむべきこと
切望す。

八月二十四日

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本新聞聯合社發行)

第十号

奉平 石

△奉天日本商會聯合會議所の
請願書

聯合通信 奉天 廿三日發

張作霖氏の支那商人を迫詰し

金の平持ちを禁じた日露協約は独り

取引所 關係のみならず一般日本

商人と支那商人との取引をも

杜絶せしめることになり、事終るまで

強敵の中央地位を握るに成功し

が此の形勢より強迫した日露協約

會議所は昨迄 緊急會議の決議

を前催して 採るべき 対策

協定の結果左の如く決議



RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

オオモツウエ

總理大臣以下各大臣、拓植事務局長、農林兩院議長、各政務本部、南東長官、世説を以て吉田總領事等、宛て請願を發した。

大正拾三年の第二奉直後より奉天界は慘落に及び、慘落を以て在滿邦人の損害額莫く数千万円に達す。然も支那官儀の奉天粟維持隊は、根底を極めず、尺雨の姑息的手段と高壓的強令とを以て、更に最近金融取締に關する内訓を、復して自國商人の日本金手持を嚴禁し、

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本新聞聯合社發行)

或は錢鈔業者と統殺に處し或は我
 國憲を犯して邦人商の支那店員を
 拘引投獄する等の暴行を敢へてした
 為めに支那商人は極度の恐怖に籠
 られ日支の商取引金杜絶して正在
 滿邦人経営の各種の企業併ひに買
 易は根柢より破壊せられんとする情
 勢を来し誠々其^{ハ耐えが}斯の如き状態を
 誘致し支那官憲として益々我々を
 輕視するに至りしめたるは下政府の
 対滿政策その當を得ざりしに起因す
 るものと認めざるを得ず此の際政府は
 従来の対滿政策を一新して断乎たる處置
 を採らん事を切望する日本會議所決議
 により請願す (八月廿三日着)



RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

奉天

物

第十一号(重)

△奉天省長物價調節分令公布

聯合通信奉天 廿三日發

奉天省長莫德惠氏於昨日各縣

知事各縣警察總商會及物價調

節機關等命令之發し奉票稍々回復

せり物價の物價の低落せしむる者ハ

道業を停止し嚴罰を施す令を日商

連日同時に布告を以て彼らに公布し

云。

八月二十五日着

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

五月五日

第拾二号(通)

△邦人商工各団体緊急協議会
と開かん。

聯合通信

奉天 五月五日

奉天日本商業會議所は奉票問題
に關し別電の如く政府與路に向つて
盡力を電請すると同時に其主旨實
徹の目的を以て上京委員一名を東上せし
むるに決した。

の舉に依り喚起され日本各商
工団体及び各機關等今二十三日午後五
時より聯合緊急協議会を開く事と
なつた。

(八月廿三日)

**三省の治外法権問題
是非解決したい**

奉天問題も寛大に
昨朝入京の趙博士語る

張作霖氏が奉天軍閥を維持し、三省の治外法権問題を解決し、日本の利益を帯びて二十一年前時、奉天軍閥が北京に侵入した際、張氏は奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。

「日本商人に」影響を
上はすべし。この方が、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。

「今年度の使命」に
張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。

奉天
石

**不要領の
支那側**

ウヤムヤの
金融協議會

「奉天問題も寛大に」
昨朝入京の趙博士語る

張作霖氏が奉天軍閥を維持し、三省の治外法権問題を解決し、日本の利益を帯びて二十一年前時、奉天軍閥が北京に侵入した際、張氏は奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。

「今年度の使命」に
張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。張氏は、奉天軍閥の代表として北京に赴き、日本の利益を主張した。

奉天
石

要再回



文書課長傳

公 信 案

大正十五年八月廿五日發

90

文書課發送

大正十五年八月廿五日發

淨書

原稿

正(原稿)

淨書

甲(說用紙)

主 任 亞細亞局長

主 任

亞細亞局長

(起草大正十五年八月二十日)

字

機密 第三三三九三號

大正

年

五

附

附屬書

通

受 信 陸軍省

阿部軍務局長

發 信

木村亞細亞局長

人 名 參謀本部

松井平二課長

人 名

木村亞細亞局長

件 名 奉天省會警察廳巡警場給運動ノ件

奉天省會警察廳巡警場給運動ノ件

名 込 綴

御參考ノ爲別紙送付ス

(大正十五年七月二十七日附在

奉天省會警察廳巡警場給運動ノ件

電 報

第四四號寫並附屬書寫)

公 信 案

外 務 省

3-1194

0128

吉田總領事から 重要な警告を發す

張作霖氏の聲明裏切りに
我政府の態度硬化

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

野心

新聞

大正八年

八月

廿日

奉票問題の 影響

速かに對策
を講ぜよ

奉天總領事に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

張作霖氏から吉田總領事宛に發せられた警告状の要旨は、張氏が張作霖氏に對して、吉田總領事は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。張氏は、張作霖氏の聲明裏切りに對して、我政府の態度硬化を警告するものである。

連綿書き一課

奉票

奉票

8052 暗 180 奉天幣
 本者着 大正十五年八月廿二日
 幣 外務大臣 吉田總領事
 第二四七号
 往電第二四二号(圓)

張作霖、錢莊、匯、直、星、水、火、累、次、電、
 通、り、し、所、也、が、爲、ノ、市、場、極、度、恐、怖、之、態、
 公、取、引、所、ハ、金、ノ、名、ノ、ト、ナ、リ、其、出、來、高、如、キ、
 十、三、四、日、ハ、不、成、立、之、終、ノ、十、六、日、ハ、五、〇、万、十、七、日、

~~千~~

二十一日、十八日三十三万、十九日五十六万、
 昨日六十七万、昨日二十一万、出來高、
 十二日以降ハ平素ノ十分ノ一ニ上ラズ、然、
 大部ハ廿八日渡渡シテ、轉賣、買戻シ、
 過ヤケルヲ以テ新規約定金ヲ取引所、
 校廳空室停止セラレ、
 奉天相場ハ十八、九日頃迄四百七、八十元
 見當ヲ持續シ居ラレ、強制令定相場
 四百三十元ヨリ、更ニ三百九十五元ニ吊上ル



具体的に
 ありんか
 けいれん
 議之類十九

ラニタルト市場恐慌観念の包ニタルト
 昨日四百三十元テウ恐慌相場ヲ顕出シ
 廣ク加也往電第ニ五号、如ク金票各種
 停止。金票交換制限並ニ金票之停止懸
 引停止等ノ事實アリ且等各種ノ事實
 相俟テ昨今日支高取引ヲ全ク停止状態
 ニ陥入レリ也。正金銀ヲ輸入ノ形勢入高
 付テ取調アルニ部松歸市度以後一時奉
 幣相場落着ヲ見セタル本年二三月候
 ニ昨年同期ニ比シ約二割高増加ヲ示シタル

四月以來漸次減少シ六月以降、如ク昨年
 同期ニ比シ僅カ三人月一十
 即チ昨年四月、四九七 (單位ハ千圓以下
 同記。五月「五八四」。六月「五五五」。
 七月「五九二」。八月「五七六」ニ對シ本年
 四月「四九四」。五月「五二一」。六月「五七四」。
 七月「五八八」。八月「五八七」ニテ右例年
 差八九月各期任テ昨上ニテ高價一層
 緩降ナルニテ本年人層以來ノ取引法直下

?

未了の向に夏期にナリタル加工業も維持
ニ對スル暴力的な倣倣に取引所ノ機能ヲ停
止シ市場ヲ威嚇シ犠牲ヲ以テ政策キ上ケタル
金票取引ノ基礎ヲスラ破壊セントシワ、アリ
トテ我ガ紡織其他輸入商ヲ類々本官へ
陳情シワ、アリ

在支公使へ轉電ヲ、哈爾濱、吉林

長春、安東、鉄嶺、遼陽、牛莊へ暗送アリ

平

〇〇

〇〇

文

8052 晴 180 奉天茶

本者看 大正五年八月廿二日所出

幣 京外勢不佳 吉田總領事

第三四七号

往電第三四二号之圖

水

張作霖、錢莊、壓迫、暴水、累次、既電、
通、所、也、加、為、大、市場、極、度、恐、怖、龍、
口、取、引、所、入、金、名、之、ト、其、出、來、高、如、
上、四、日、以、不、做、之、終、了、十、六、日、八、五、〇、万、十、七、日、

十一日、十八日、二十三日、十九日、五、十、六、万、
廿四日、十七日、廿一日、二十一日、出、來、高、二、
十一日、以、降、以、平、素、十、分、一、之、上、之、如、然、之、其、
一部、に、非、合、受、渡、之、分、轉、賣、買、度、之、
思、下、ル、以、新、規、約、定、金、ヲ、取、引、所、
概、然、金、額、停、止、セ、シ、フ、リ、
奉天、相、場、八、十、八、九、日、頃、迄、四、百、七、十、八、元、
見、當、ヲ、持、續、シ、登、リ、タ、ル、之、強、制、公、定、相、場、
四百三十元ヨリ、更、ニ、三百九十五元ニ、昂、上、ル、

〇〇

〇〇

文

日米相場 市況恐怖観念の包コレタル
 非日米四百三十元ヲ恐怖相場ノ顕出シ
 度ナリ 加東往電 萬三十五元 如キ金需金控
 替也。今更ニ金需金控 創隱道ニ金需金控
 引替止等ノ事 實アリ 且案各種ノ事 實
 相續ニ 昨今日支高 取引ノ全在 休止 状態
 陥入ノ多ク 且正金 銀力 輸入ノ形 度ニ高
 價ノ取 價ノ高ニ 郭松 歸事 度以後 一時 奉
 西相 湯若 諾着ノ見ニ タル 本年 二三月 以後
 之 昨年 同期ニ 比シ 約二割 高增加 云々

四月以來 漸次 減少シ 六月以降 如キ 昨年
 同月 比シ 僅カ 三ノ百一十九
 即チ 昨年 四月 四九七 (單位 千圓以下)
 四月 五八四 五月 五八四 六月 五五五
 七月 五五五 八月 五五五 九月 五五五
 十月 五五五 十一月 五五五 十二月 五五五
 以上 各月 平均 五五五 本年 平均 五五五
 以上 各月 平均 五五五 本年 平均 五五五
 以上 各月 平均 五五五 本年 平均 五五五

以上 各月 平均 五五五 本年 平均 五五五
 以上 各月 平均 五五五 本年 平均 五五五
 以上 各月 平均 五五五 本年 平均 五五五

来子ノ向ニ夏 福期ニナリタルニ加工 奉 票 維持
ニ對スル 異力ノ自 彼々 遂ニ 取引所ノ 極能ヲ 停
止シ 市場ヲ 威嚇ニ 犧牲ヲ以テ 策キ上ル
全西 取引ノ 甚ニ 破壞セシメ
トシ 我ガ 紡織 其他 輸入 高ク 頻りに 奉官へ
陳情シマアリ

在支公使へ轉電ヤ 哈爾濱 吉林

長春 奉天 錦州 遼陽 牛莊 へ 暗送アリ

8087
(4) 629

奉天後
奉天着

大正五年八月廿三日
前
奉天商業會議所會頭

幣原外務大臣

奉天商業會議所會頭

藤田 忱

(同文十通ノ四)

大正三年第二次奉天直戦後ヨリ奉天蒙ハ慘落
ヲ以テシテ之ガ爲ニ在滿邦人ノ蒙ル損害確實ニ數
千萬圓ニ達ス然モ支那官憲ノ奉天蒙ヲ持
策ナルモ人其根底ヲ究メサル只一時ノ姑息手
段ト高圧的暴令ニシテ最近金融取締ニ因テ
内訓ヲ發シ自國商人ノ日本金手持ヲ嚴禁シ
或ハ錢鈔業者ヲ銃殺ニ處シ或ハ我國推シ犯シテ

邦人使用支那人ヲ拘引投獄スル等ノ暴行ヲ敢
テシテ爲ニ支那商人ハ極大ノ恐怖心ニ籠リ日支
商取引全ク杜絶シ才ニ在滿邦人各種ノ企業
並貿易ハ根底ヨリ破産セラレトスルノ情勢
ニシテ莫ク莫クハニ堪ユス斯ノ如キ情態ヲ誘致
シ支那當局ヲシテ益々我ヲ輕視スルニ至ラシメ
一ニ我政府ノ對滿政策ノ當ヲ得ガリシニ基因スル
モノト認メザルヲ得ズ此際我政府ハ從來ノ對滿
政策ヲ一新シ茲ニ斷乎タル處置ヲ執ラシム事ヲ
切望ス
右奉天會議所ノ決議ニ據リ請願ス

亞細亞

鑑録

公第六三九號

大正十五年八月十七日

綴込名 奉 案

在 奉 天

標領事 吉 田



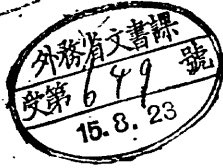
通商局第二課
十月十七日
務大臣男爵幣原喜重郎殿

附屬書類添付

支那官憲金融維持策及銀莊壓迫其他
金融維持策二編スル件

本件ニ關シテハ不取敢往電第二三四號ヲ以テ概況報告申達置タルニ
其詳報別紙ノ通りニ付御査閱相成庶右報告ス

本信壹送付先 在支公使 在派各領事



當分留置

支那官憲ノ金融維持策及其影響

奉天票ノ價格維持ニ際シ奉天當局ハ本月十三日附公第六二四號及公
第六三〇號所報ノ如ク種々ノ善後策ヲ施シタルモ奉天票相場ハ依然
トシテ反騰ヲ見ヌ別表掲記ノ如キ經過ヲ辿リツツアリ而シテ支那側
ハ右暴落ノ原因ハ主トシテ奸商ノ空賣買等ニ因ルモノナリトシ從來
日本側取引所ノ中止ニ際シ希望ヲ申出テタルコトアリ其詳細目下ノ
時期ニ於テ取引ヲ中止スルカ如キハ却ツテ人心ニ不安ヲ抱カシムル
ノ原因トナルヘク甚ノ不可ナルヲ諷諭シ置キタリシカ本月初旬ニ至
リ莫省長ヨリ日本側取引所ニ於ケル日々ノ銀鈔取引金額ヲ當分ノ間
適等ニ制限セラレタキ旨ノ内相談アリ今回ハ取引所ノ中止ヲ叫ハス

シテ制限ヲ發見スルモノナルニヨリ前同様ニケナク之ヲ一蹴スル
ハ如何カト思考シタルニ付一應考慮シ置クヘキ旨ヲ答ヘ置キタルカ
兎ニ角支那側ニ於テハ奉天票ノ暴落ハ奸商ノ空賣買ニ在リト爲シ之
カ取締ノ目的ヲ以テ今回別紙甲號諭文ノ如ク金融取締條例ヲ發布ス
ルト共ニ奉天票對金票價格ヲ四百三十元ニ限定シ之ニ違ハサルモノ
ハ金融擾亂者トシテ同罪スヘキ旨ヲ公布シ本月十一日省城内外支那
錢鈔業者使用支那人二名絲房使用支那人一名翌十二日附屬地日吉町
邦人並支那人錢莊業者使用支那人三名十四日附屬地外居住邦人錢莊
業者使用支那人二名ヲ金融擾亂罪ノ名稱ヲ以テ拘引シ更ニ奉天取引
所場立ニ從事スル支那人檢舉ノ爲メ多數密偵ヲ新市街方面ニ密派シ

居レル模様アリ爲メニ附屬地内外ヲ遍シ錢鈔業者ニ使用セラルル支
那人店員等ハ極度ノ恐怖ニ驅ラレ十三、四ノ兩日ハ取引所ニ於ケル
立會不能ニ陥リ從ツテ奉天票ノ公定相場ヲ見出スニ由ナク奉天兩業
會議所ハ此種支那側ノ壓迫ニ感シ一昨十四日臨時議員會ヲ開催シ其
ノ決議トシテ別紙乙號諭文ノ通り支那側ニ對スル交渉方ヲ請願シ來リ
タルヲ以テ邦人使用ノ被拘引者釋放万ト共ニ支那側ノ不法措置ニ對
シ目下嚴重交渉中ニシテ既ニ前記被拘引者中四名ハ其ノ釋放ヲ見タ
ルモノ一方支那軍警ノ附屬地内ニ於ケル不法行動取締ノ爲メ警察署員
ヲシテ嚴密ナル監視ヲ勵行セシメツツアリ尙支那側ニ於テハ奉天票
信用維持ノ方法トシテ八月十三日陸公第六二四號報告所載現大洋二

十萬元ニ相當スル額ノ奉天票ヲ公共滙兌所ニ於テ上海天津向爲替トシテ賣出スル外本月十日ヨリ城内現貨交易所ヲ復活シ再ヒ金票現物取引ヲ開始スルコトト爲シタルモ交易トハ名ノミニシテ其ノ實ハ從前同様官銀號一派ノ金票現物賣出シテ意味シ難重取額ノ下ニ一日金五萬圓ヲ限リ市中相場ニ不拘限定價格四百三十元ヲ以テ金票賣出シテ爲シツアルモ果シテ何時迄繼續シ得ヘキヤハ疑問ニシテ現ニ一般市民ハ右交易所賣出ノ恩典ニ浴シ得ヌ專ラ兵工廠及官銀號ノ廻シ者ニヨリ其ノ權利ヲ獨占セラレツアル有様ニシテ此種維持策ノ如キハ全ク姑息的手段ニ過キササルナリ

右報告ス

奉天票相場表

月日	取引所標準相場	後場	現物平均相場
八月九日 月	四八四二〇	休	四八〇〇〇
八月十日 日	四七六〇〇		四八〇〇〇
八月十一日 日	四八八七〇		四九五〇〇
八月十二日 日	四八五一〇		四八六〇〇
八月十三日 日	支那官憲ノ壓迫ニヨリ取引人ノ使用支那人恐怖ニ驅ラレ遂ニ立會取引ヲ見ルニ至ラス		四八〇〇〇
八月十四日 日			一定ノ相場ヲ見出シ得ヌ

甲

第一條 現大洋金環ノ手持ヲ禁ス

第二條 官吏ノ投票ヲ禁ス

第三條 現洋ノ境外持出シハ五元ヲ限度トシソレ以上ハ密輸出ト認
ノ嚴罰ニ處ス

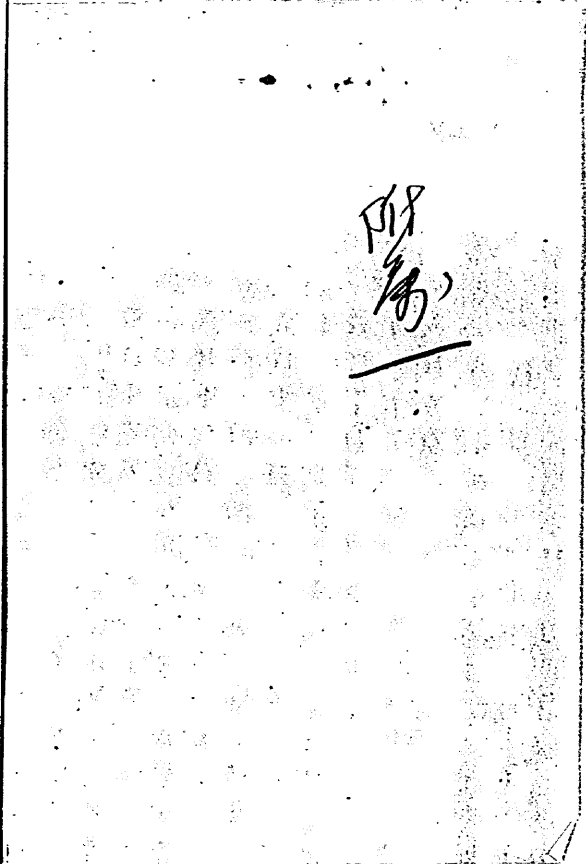
第四條 各銀行商店ニシテ本票ノ空賣買ヲ爲ス者アル時ハ其營業ヲ
停止ス

第五條 現大洋ヲ密輸スル者アラハ内外人ヲ問ハス之ヲ嚴罰ニ處ス

第六條 暴利ヲ食ルモノハ直ニ之ヲ逮捕シ適法ノ處罰ヲ行フ

第七條 軍人ニシテ本法ニ違反スル者アル時ハ軍法ニ據リ處斷ス

第八條 官吏ニシテ本法ニ違反スル者有ル時ハ直ニ所管官廳ニ引渡



附
屬

スヘシ

第九條 公金ヲ利用シテ投機ヲ爲シタル者ハ罪一等ヲ加フ

第十條 謠言ヲ流布シ率票ヲ低落セシメタル者ハ嚴罰ニ處ス

第十一條 各交通機關ハ現大洋密輸出者ヲ嚴重警戒スヘシ

第十二條 銀行貯蓄會等ヲ調査シ現洋金票ノ五千元以上ノ預金者ニ

ツキ本法ノ違反者ヲ發見セル際ハ其金額ノ半ハ官之ヲ沒收シ半ハ

發見逮捕者ニ賞與トシテ支給ス

第十三條 總テ現洋金票ノ必要アル者ハ官銀號ノ交換率ニ據ルヘシ

第十四條 特ニ商埠地通過ノ車馬ニ注意シ金銀密輸ヲ警戒スヘシ

第十五條 各銀行商店ハ總テ官銀號發表ノ公定相場ヨリ金ヲ換算ス

第十六條 本規定ハ發布當日ヨリ有効トス

第十七條 本規定ハ率票價格恢復ト共ニ廢止スルモノトス

乙

奉天商會第五三四號

大正十五年八月十四日

奉天商會事務所

副會頭 高橋 貫一

在奉天

總領事 吉田 茂 殿

支那官憲ノ日本錢鈔業者壓迫ニ關シ請願ノ件

本十四日首題ノ件ニ關シ當所議員會ヲ開催シ其ノ決議ニヨリ左ノ事項ヲ支那當局ニ御交渉方並ニ機宜ノ措置ヲ採ラレンコトヲ請願候也

記

一、支那官憲ニ拘引セラレタル日本商店使用支那人ヲ直ニ解放セシムルコト

二、支那官憲ハ今後日本商店ニ使用スル支那人ヲ自由ニ拘引シ又ハ要請ヲ加ヘサルコト

特ニ附屬地ニ立入り日支商人又ハ其店員ヲ不當ニ拘引スルニ至ツテハ慥カニ我警察權ノ侵害ニシテ若シ之カ抗議緩漫ニ流ルルニ於テハ將來我國權ノ威信ヲ失墜シ由々敷大事ト認ムヘキヲ以テ嚴重ニ將來ヲ警告サレタキコト

三、奉票取引ニ制裁ヲ設ケ取引人ヲ壓迫シ又ハ日本商店ノ使用人ニ要請ヲ加フルカ如キハ外國人ノ營業ヲ妨害スル行爲ト認ムルカ故ニ

支那官憲ニ對シ警告ヲ發セラレタキコト

四、奉票相場ニ不當ノ人爲的制限ヲ設クルハ國際的取引ノ圓滑ヲ害ス
ルコト甚大ナルカ故ニ速カニ之ヲ撤廢セシムルコト若シ肯セサル
ニ於テハ該公定相場ヲ以テ完全ニ取引ヲ爲シ又ハ無制限ニ交換ヲ
行ハシムル様支那當局ニ交渉シテ其保障ヲ得ラレタキ事

五、郵便事館ニ於テハ附屬地郵便網ヲ連結ナリテ支那密債ノ附屬地内
ニ於ケル行動ヲ取締マラシメタキ事

以上

15.8.30

奉天情報第六号

第一課

奉天西果

大正十五年八月二十三日 奉天公所長 鎌田弥助

庶務新長敷

字送付先 大務理事 支社長 哈爾濱南廣事務部長

長之若 課長 謝未 課長 谷 課長

通商局第二課

金融維持会 日本側 招待官

外務省

是日 奉天金融維持会 八月二十一日 小河沿德 櫻井 櫻井

朗清(省議令長) 馮子安(教育會長) 木子 蔭 興

(同副會長) 丁 極 宸(商務總會長) 鹿 宿 國(西辰

務令長) 祖 憲 庭(附居地 商務總會長) 劉 漢

庭 董 子 衡 及 鄧 鵬 秋 之 通 譯 陳 偉 儒 二 氏 日 本 側 出 席

者 八 河 野 副 總 事 平 野 地 方 事 務 課 長 河 本 儀 長 都

甲 天 化 協 會 長 佐 藤 取 引 課 長 菟 岩 商 業 會 議 課 長

高 橋 東 吉 官 業 課 務 取 締 右 近 鮮 銀 支 店 長 山 口 地 方

委員 小 沢 商 業 會 議 課 書 記 長 木 村 地 方 委 員 川 本 居

留 民 會 長 平 塚 取 引 課 課 長 遠 藤 滿 蒙 毛 織 會 社

支 務 取 締 紋 吉 川 地 方 事 務 課 課 長 貝 末 光 地 方 委 員 會 議 長

鎌 田 瑞 鐵 公 司 長 原 田 幸 會 議 課 課 長 原 田 瑞 瑞 銀

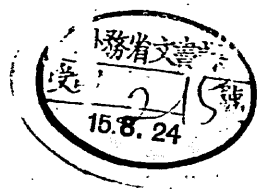
行 員 等 三 十 余 名 ニ 於 テ 午 後 八 時 開 宴 セ リ

省 議 令 議 長 范 朗 清 氏 先 少 起 テ 申 各 々 如 手 控 抄 ヲ

セ リ

今日故爲日本側各団体ノ首腦者ヲ御招待中ニ於テ
御未加馬ヲ辱ラシ先榮之過キ云々 奉西京ハ東三省ノ
命脈ニシテ既ニ低路此ノ如キ此然ニ至ル此際極力
之ヲ維持セカレオラズ故ニ鄙人等々茲ニ金融維持
會ヲ組織ス而シテ附屬地華僑會々大々此舉ヲ
ニ柱ニシ始メテ君等策君等力ヲ效力ヲ収ム故今ハ民意ヲ
根據トシテ成立シ純然タレ民意機關ナレハ人民國
結ス以テ金融融ヲ維持ス附屬地ノ貴國官署ニシテ
善意的協助ヲ其ハルレハ奉西京前途ノ福音ノ至ラス又
中ヨリ民親善善實行ニ大好機今ナリ諸公此意ヲ
諒解セラレ實際ノ許可授ク賜ム層ニ敵會々奉西
京ハ此等又均レリ恩惠ニ以テ茲ニ杯ヲ舉ゲテ謹ニテ
諸公健康ヲ祝スト述ベ最後ニ華僑會々之唱セリ
范議長ノ挨拶終リ繼イテ附屬地華僑會々長祖憲
成ニシテ諸君ト一書上ニ今ニシテ得タル八鄙人無上ヲ
光榮ナリ本會發起當初埠内各団体ハ南洋諸
中華會務會々發起ニ加入セシ事ヲ要スセリ
之即チ附屬地有リテ以來埠内各民ト附屬地
各民トノ提携ノ端矣ナリ而シテ中華會務會
會加入ノ意ハ共同ノ利害ヲ計ルルハ当然ノ事ニシテ
其尤ニ疑フベキ事ナシ母ニ故更ニ諸君幸ニ明
察シ誤會スル勿レ埠内各団体ノ意思ハ奉西京低

重三
重三



亞細亞 第一課乙 亞

公信第二〇八號

大正十五年八月十七日

綴込名

在鐵嶺

領事 田中 莊太 郎



外務大臣男爵 幣原 喜重 郎 殿

支那官憲銅元移出禁止ノ件

今般開原警察署長ヨリノ報告ニ依レハ會テハ奉票一角ニ對シ十四五枚ノ換算相場タリシ銅元ハ俄然昂騰シ目下ハ七八枚ヲ以テ奉票一角ニ換算セラレツ、アリ商民ハ變動常ナキ奉票ヨリモ割合安全ナル銅元ヲ歡迎スル傾向漸次昂マリ是カ爲利殖ニ敏ナル商人ハ銅元移出賣買ヲナスニ至リタルヲ以テ曩ニ奉天省長ハ之ヲ以テ地方金融ヲ紊亂スルモノトシテ多額ノ銅元移出(縣境)ヲ禁止スル旨各縣ヘ通達セシカ本月十四日更ニ極小額ノ所持旅行ノミヲ許シ其他ノ移出ハ全然

在鐵嶺日本領事館

禁止シ若シ銅元賣買ヲ目的トスル移出者アルヲ發見セハ嚴罰ニ處スヘキ旨訓達シ開原縣公署モ該命令ヲ受ケタル趣ナリ
右何等御參考迄ニ報告ス

寫送付先

奉天、安東、牛莊、鄭家屯

在鐵嶺日本領事館

公信第 二〇九 號

亞細亞

第三課

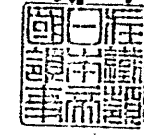
別紙添附

大正十五年 八月十八日

在鐵嶺

綴込名

領事 田中莊太郎



重細要書第一課

外務大臣男爵 幣原 喜重 郎 殿

要目付

大正十五年 八月十八日附奉天總領事宛奉領

第一七〇 號寫送付

件名

一、錢鈔取引人壓迫ニ從事セル王憲兵營長ニ對シ開原警察署ノ取ル措置ニ關スル件



寫

奉領第一七〇號

大正十五年八月十八日

別紙添附

在鐵嶺

領事 田中莊太郎

在奉天

總領事 吉田 茂 殿

錢鈔取引人壓迫ニ從事セル王憲兵營長ニ對シ開原警察署ノ取ル措置ニ關スル件

過般來奉票相場維持策ノ爲奉天省官憲ハ開原附屬地内ニ於ケル我方取引所仲買人ニ壓迫ヲ加ヘツツアル件ニ關シテハ本月十四日附機密第一六六號竝ニ同十六日附奉領第一六七號各拙信ヲ以テ通報ノ通リナル處右壓迫ニ直接從事シ居タル奉天東北憲兵營長王柏外二名ニ對シテ開原警察署ノ執レル措置ニ關シ本月十六日ノ東三省公報及醒時報等ニ事實ヲ捏造セル記事ノ掲載セラレアルヲ見又昨十七日貴館河

在鐵嶺日本領事館

寫

野副領事ヨリ電話ヲ以テ本件ニ關シ奉天交渉署側ヨリ内交渉アリシ
趣通報アリ其際不取敢概略回答シ置キタルモ尙今般佐佐木開原警察
署長ヨリ本件ニ關シ詳報アリタルヲ以テ御參考迄右寫別添ノ通り進
達ス

寫送付先

外務大臣、在支公使、安東、長春各領事、關東長官

在鐵嶺日本領事館

開高警秘收第四〇八一號ノ八

大正十五年八月十七日

佐々木開原警察署長

田中鐵嶺事務官 殿

漢字新聞當署攻撃ニ關スル件

昨十六日東三省公報及醒時報等ニ當署カ去ル十四日東憲兵第四營
長憲兵中佐王柏外二名ヲ同行シ取調ヘタル件ニ關シ當署ノ處置ヲ攻
撃シ取調ヘニ際シ歐打シ又ハ燒座セシメ侮辱ヲ與ヘタルカ如キ意味
ニ誇稱シアルモ本件取調ハ高木主任西内警部補主トシテ之ニ任シタ
ルカ之カ取調ヘニ際シ更ニ禮ヲ失シタル行爲ナク歐打シ燒座セシメ
タル等ノ事實更ニナク全然中傷的記事ニ有之且彼等ヲ同行取調ヘ附
屬地ノ撤退ヲ命スルニ至リタル動機ハ去ル十五日附本號ノ五報告ノ
通りニシテ王營長ハ去ル十一日來開天合興支配人及帳簿ノ引渡要求

在鐵嶺日本領事館

不調ニ終リ引續キ城内知事出署通譯李恩普ト共ニ附屬地支那料理店
群仙書館ニ流連神優多術ヲ揚ケテ遊興シ附屬地内錢鈔業者圖通棧及
純慶茂ノ各支配人ヲ呼寄セテ遊興ノ相手ヲ爲サシメ(遊興費ヲ支拂
ハシムルヲ目的トス)一面錢鈔業者壓迫ニ關スル流言ヲ放チ取引所
ノ取引ヲ皆無ノ狀態ニ陥ラシメ且個人營業ヲモ閉塞セシムルニ至リ
其害毒ノ波及底止スル所ヲ知ラサル狀態ニ在リシカ恰モ王營長カ天
合興店員ヲ機會ヲ見テ附屬地外ニ拉致シ奉天官憲ニ送致スヘキ計盡
ノ下ニ滞在シ部下二名ヲ潛伏セシメ居ルコトヲ探知シタル爲急ニ署
員ヲ派シ各方面捜査ノ結果十四日午後二時圓通棧(附屬地)ノ帳簿
檢閲交渉中(營長及圓通棧支配人ハ檢閲ノ事實ヲ否認ス後者ハ後難
ヲ恐ルルカ爲ナリ檢閲交渉中ナリシ事實ヲ後者ハ邦人有力者ニ口外
セシ事實アリ)ヲ同行シ一應取調ヘタル上同日午後五時四十八分開
原發列車ニテ歸奉セシメタルモノナリ右ノ處置ハ開原附屬地日支人
間ニ好感ヲ與ヘ翌十五日日曜ニモ拘ハラヌ取引所ニ於テ多少ノ取引
アリ昨日ハ金票鈔票五萬七千圓ノ取引行ハレ漸次形勢ヲ好轉シ本日

在鐵嶺日本領事館

ハ金票四萬七千圓鈔票九萬九千圓合計十四萬六千圓取引セラル、ニ
至レリ(大豆ノ取引モ好轉)
本日正午鐵嶺交涉局長當寫署ニ來訪シ王營長取調ノ實情竝ニ群仙書
館ニ於ケル遊蕩ノ狀況等ヲ質問セシヲ以テ圓滿ニ應接シ卒直ニ實情
ヲ説明シ置キタリ就中毆打狀座云々ノ如キ無根ノ事實ヲ捏造シ新聞
ニ公表セルカ如キハ恥ヲ天下ニ曝スモノニシテ而モ兩國民ノ感情ヲ
激發スルノ弊害ヲ伴ヒ失フ所多クシテ得ル所少ク甚タ遺憾ナリ殊ニ
小孫家台第四區々官李慶善ハ十四日王營長取調ノ際現場ニ出入シ其
實況ヲ熟知セリ詳細調査ノ上奉天ニ報告セラレ度シ云々ト力説シ置
キタリ
右及報告候也

在鐵嶺日本領事館

8069 南条禮長
長瀬外務大臣
兒玉長官

第五號

本官受奉天免電報初四一號

貴國初五二號之閣下用察警案四番が通

兵衛長カハク他富兵上并兵ニ名ヲ取調ハ

ルハ本月十四日ニシテ連日釋放セシムル事ナリ

而シテ目下支那側ニ拘禁中我取引人使用支那

人ニ名内奉天附属地富安銀所職員ニ名ニ十

二名城内未だ報知所員一名ハ十三日拘引セシ

タルモノニシテ其他既ニ釋放セシタルモノアリ又

八月ヨリ十三日ニ至ル間拘引セシタルモノニテ用

原三姓ヲカシ富兵衛長取調ハ事件ハ報復ト

シテ拘引セシタルモノト云ヒ難シ用察四番ニ於ケルカ

兵衛長ハ甚動ハ因中欲事多ク貴國ハ通報ハ有

十九日附力一七〇号)一週ニシテ此際若松案四番

商

8074 (暗) 40

鐵嶺發
奉省着

大正九年八月廿四日

發

奉平

奉天總領事

田中領事

第一六号

奉天總領事宛電報第一号ニ関シ

テゴリヨリ 事件ニ就テハ南原署長ハ奉官ニ

候儀、上層理セルモ王^{エイケイ}ヲ召喚取調

ノ上附属地退去ヲ適用スルニ至リシハ署長

ノ独斷ニ属シ奉官ハ事後報告ヲ圖キシモニシテ

尙其際南原警察署署長^{エイケイ}ヲ凌辱ス

ニ関シテハ自ら真相取調中ナリ。為念

外務大臣在支公使 奉天 長春 遼陽
安東 牛莊ニ轉電セリ

印

2098
晴 34

北名 文
本 有 著 大 正 十 五 年 八 月 二 十 四 日 五 三 六

幣 局 外 務 省 環 球 時 代 理 子 使

奉 呈

印

才 五 三 八 號

本 官 於 在 奉 天 總 領 事 定 規 報

第 三 七 號

奉 天 省 政 府 以 奉 天 案 內 核 實 事 項 目 的 於 大

會 社 之 四 五 百 萬 圓 之 短 期 借 款 申 出 於 大 會

之 一 應 考 慮 中 之 目 下 考 地 帶 在 中 國 野

地 步 張 之 促 進 事 業 之 進 行

本 日 二 十 一 日 蒙 奉 天 省 政 府 奉 天 總 領 事 館 領 事

伯 士 謹 誌 上 照 應 之 以 貴 州 本 件 之 實 相

本 官 之 實 相 實 報 之 實 相

才 五 三 八 號



出淵外務次官 岡本廳警務局長

昭和十六年八月廿四日
岡本廳警務局長 岡本

美事

鐵莊警者ニ對スル支那側ノ在道
ハ依然然ニ緩マサルガ商民ハ之ニ憤シ
テ若年者如ク昨日奉天取引場ニ於テ
ハ先物取引好ムトシテ立合
下リ見込ムルハトシテ
下リ見込ムルハトシテ

密

805 暗外

奉天電
本署著

大正十一年八月二十日 日 10.30

幣外務大臣

吉田 総務

台第一八四號

本向三榮園東主鎌倉官宛電報

第五三號

貴電先四一號ニ對シ

往電第五二號ニ意味ハル 王營長逮捕等ニ對スル

執復ト言フハ録在取引件買込支那人店員ノ拘引

ヲ以テ執復セントストノ意味ニアラズ今猶拘留

中ニレテ秋放セザレハ王營長ニ對スル 我措置ニ

付テ支那側ノ不満ニ出ツト噂セラルヲ言フナリ

現ニ交渉負ハ去ルニ十二日本官ニ對シ王營長處

待ノ事實ヲ云々ニテ説明ヲ求ムル所アリ之ニ對

シ本官ヨリ馬ト取調ノ上回答ヲナスベシト一應

申聞シ四五ナニル次第ナルガ往電第五三號ハ貴廳

取調ヲ待ツテ回答ヲナス為メ特ニ念ノ為メ電報

致シタル次第ナリ又聞不協務所長ガ王營長處

置ニ付テ事前ニ田中總事ニ提議セリヤ否ヤ本官

ノ聞ク處事實ハ貴電ノ意味合ト多少異ルカ如キ

モ貴廳ノ對外事件ニ對スル處理方針尙未示ノ由

ナレハ至極結構ニテ非難ハ在望ニ當者長ニ於テ今

後共ニ得道ナキ様益々御督勵ヲ請フ

吉田 総務

抄

外務大臣 在支公使館 哈爾濱 吉林 長春 牛莊
駐劄 遼陽 之 電 也

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

東中
下

兼三(三)

△兼作兼三の布告

聯合通信 兼三(三)四頁

兼作兼三氏は三三三付金を継取
際上五三三の銃殺者と本した理由と
釈明した後現と罪ある者も有
氏の安寧を保持する為の特に既
後の罪科を向はす故免るも
將不斯断して斯かる行爲をせうと
の意味を布告した。

一月三十四日

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

第三十五号(五)

△張氏の露路國紙幣流通

禁止

奉天

聯合通信

奉天二十五日發

支那國機關紙の報道に依ると張

作軍林氏々東三省に於けるソウイェト

政府が發行の國幣を左レボネツツの

流通と省民へ之が手持を禁止したと

禁よの理由は省民が露國政府の財

政紊亂からまじいた留の輸を踏まぬ

ためたと云はれて居るが同紙幣の流

通禁止は本月中旬吉林黑龍江

省の密令で既に實施されて居たので

極東銀行の如き秘かに解禁運動

を以て居たものとある。(八月二十五日)

8728 平 128

奉天電
本省著

大正十五年八月二十四日
二十日午後一時

幣外務大臣

在奉天商工團體及各機關
昨日開議會座長
末光 源 花

手印

（全文十通）

奉天警署長等ニ対スルニ
ハ我ニ在滿貿易ヲ杜絶シ
セニテ我ニ對シテ
ノ際政府ハ速カニ
ルカ同時ニ
レニシテ條約上ノ
レンヲトテ切望ス



組 倉 大 社 會 名 合
座 銀 京 東

()

趣ナレバ同氏ノ訪問ヲ受ケタルヤモ不計候得共小生ハ老人ヨ
リ何等申來リ不居候
右奉天商談ガ幾分ニテモ進捗致ス様ニ御座候節ハ貴方へ御報告
可申上又御意向モ相伺出可申存念ニ御座候
以上概況御参考迄申上候
敬 具



組 倉 大 社 會 名 合
座 銀 京 東

()

大臣
政務次官
谷 正 之 殿

大正十五年八月廿五日
外務省亞細亞局

谷 正 之 殿

奉 天 空
野 重 九 郎

拜啓離京勝ニテ御無音致居候只今電話ニテ申上候通り數週前奉
天川本ヨリ金五百萬圓借入ノ申込張作霖氏筋ヨリ有之候旨申來
リ候得共單ニ奉天票下落防止ノ爲メ云々ニテ擔保等具体的ナラ
ズ又當方金融上餘裕有之次第ニモ無之旁々具体的ノ申入レヲ得
バ考慮スベキ位ノ返答致置候最近奉天川本ヨリ在北京河野久太
郎ニ對シ此借入金申入ニ付キ尙協議ヲナス爲メ來奉ヲ促シ居リ
候様子ニ御座候
現時入京中ノ趙氏トハ未ダ面會モ不致或ハ老大倉モ昨日歸京ノ

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本新聞聯合社發行)

東京三月六日

東京三月六日

東京新聞聯合社

聯合通信

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社

東京新聞聯合社



RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本新聞聯合社發行)

東京三月二十六日

長谷川相場は現洋田の金

銀三九の七あり。

(二月二十六日)

3-1194

0165

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp>

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

三月廿八日(五)

△張作霖の物價公定相場設定。

聯合通信 奉天二十六日午後

張作霖氏は奉天西果の公定相場

を設定する一方物價の公定相場を設定

したが今日まで物價の公定相場も設定

したのは左の種類である。

一、高粱 一斗 四元

二、鮮糸 一束 十六元三斗より十五

元七斗。

三、豆油 一斗 六角六分。

四、藥品類 現在價格の八割。

五、肉類 一斤 七斗。

六、絹織布類 靴類は現在價格の八割。

青島

物

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

房二拾八号の二

七、菓子類は現在價格の七割。

右の外穀類は高梁、米、麦油類は豆

油、洋油、植下ガ、米、命、

八月二十六日着



8144 借 奉天 著 大正五年七月廿五日 右四五六

幣 原分 務大臣 吉田 總領事

合 第 二 七 號

本 官 費 南 東 廳 長 官 宛 電 第 五

五 號

本 官 費 大 臣 宛 電 第 二 四 九 號

二 周

昨 廿 五 日 夕 イ ラ リ ヤ 商 業 會 議 所

會 頭 及 末 光 協 議 會 長 ヲ 呼 寄

也 光 刻 會 談 中 變 員 一 部 ヲ 口 調

奉 電 印

ニテハ 大 部 穩 カ ナリ サル 宣 辭 ヲ 五 廿
ル 者 ナリ 斯 ヲ 以 テ 中 民 大 會 ノ 辦 論
國 文 ノ 當 局 者 ナリ 單 倒 スル ノ ミ ナリ
自 國 政 府 有 凌 辱 之 其 結 果
大 會 自 身 ノ 面 目 ヲ 傷 ヲ 且 甚 甚
國 交 リ 累 リ 及 亦 力 如 キ 甚 外
事 ナリ ナリ 保 之 難 キ 點 會 アリ 充 分
豫 六 主 修 者 於 之 注 意 者 ナリ 加 へ
標 爲 ト 中 南 ヲ 置 ヲ リ 前 例 之 體
三 ル 之 斯 ル 中 民 大 會 ノ 標 爲
各 地 之 電 報 報 ト ナリ
于 報 電 各 地 新 聞 社 之 標 爲

1

1

1

1

1

1

1

1

之ヲ報道ニ依テ以テ徒ニ人心
 ヲ煽動シ國交ヲ傷ム事例
 其邊ニ付注意ヲ加ル可ク
 指置テ乞フ所也
 多ク務出匠長若鐵産邊陽子
 東斗廿壯ハ朝鹿也

電信課長

大臣 次官 傍

門類 3
項 4
號 3

亞細亞 歐米 通商 條約 人情 報事 文書 會計

件名 支那の對策
綴込名 支那の對策

8166 暗 10分 奉天發 本着着 大正十五年八月二十七日午前七時

幣原外務大臣 吉田 總領事

第二四九号

八月廿三日 商業會議所 會頭ヨリ會
議所ノ決議トシテ奉天官憲ノ奉天
武力維持策ノ為滿州貿易ノ破壞ス
可キ懼レアリトテ支那側ニ對シ斷
処置ヲ採ルル 陳情ノ次第アリ右決
議ハ其當時全會議取ヨリ貴大臣其他
電報セル趣ナルカ次ニ本亦五日在

寫送先

奉商工業團體其他ノ聯合ノ緊急協
議會トシテ其代表者二十余名全稱ノ趣
旨ノ決議書ヲ以テ本官ニ面會ヲ求メ
陳情ノ次第アリ 尚代表者ヲ上京セ
ルニ由リテノ意味合ヲモ述ヘタルニ付
本官ハ現状改善ノ為支那側ニ對シ
現ニ努力中又帝國政府モ充分考
慮ヲ加工種々訓令ノ次第モアリ政策
論ハ別トシ損害其他ノ実情ハ詳細
本官ニ於テモ又帝國政府ニ於テモ充
分明白ニ第知ニ度シトテ各自ノ實見談
ニ付事情ヲ支那側交涉ニ付テハ猶
聴取シ

努力ス可キ旨申聞ケテ引取ラシメタリ
 代表トシテ本館者中ニハ新聞社モ
 アリ又此機会ニ一騷キトサントスル
 輩モアルヤノ模称ニ付本日ノ會見
 談ニ付謠報ヲ防リ為聯合通信
 ヲシテ其模称轉電セシムルト共ニ代
 表者中ノ主カタル者ニ對シテ行動ヲ
 慎重ニスル称注意心シ置キアリ
 関東廳長官在文台使へ轉電セリ

12

8166 晴 10分

奉天發 本省着

大正十五年八月二十日 前七三五

幣原外務大臣

吉田 總領事

第二四九号

八月廿三日 商業會議所 會頭ヨリ會
議所ノ決議トシテ奉天官憲ノ奉天
武力維持策ノ為滿州貿易ノ破壞ス
可キ懼レアリトテ支那側ニ對シ斷
処置ヲ採ルル 陳情ノ次第アリ右決
議ハ其當時全會議取ヨリ貴大臣其他
電報セル趣ナルカ 次ニ本亦五日在

奉商工業團 其他ノ聯合ノ緊急協
議會トシテ其代表者二十余名 全稱ノ趣
旨ノ決議書ヲ以テ本官ニ面會ヲ求メ
陳情ノ次第アリ 尚代表者ヲ上京セ
ル可ク之ノ意味合ヲモ述ヘタルニ付
本官ハ現状改善ノ為支那側ニ對シ
現ニ努力中又帝國政府モ充分考
慮ヲ加工種々訓令ノ次第モアリ政策
論別トシ損害 其他ノ實情ハ詳細
本官ニ於テモ又帝國政府ニ於テモ充
分明白ニ第知ニ度シトテ各自ノ實見談
ニ付事情ヲ(聽取) 那側交涉ニ付テハ猶

努力ス可キ旨申聞テ引取ラシメタリ
代表トシテ来館者中ニハ新聞社モ
アリ又此機會ニ一強キトサントスル
輩モアルヤノ模標ニ付本日の會見
談ニ付誤報ヲ防ク為聯合通信
ヨシテ其模標 郵電セシムルト共ニ代
表者中ノ主カタル者ニ対シテ郵
電ニスル標 注意心シ置キヤリ
関東廳長官 在支公使へ郵電セリ

電信課長



件名
綴込名 支那財政問題 奉天問題 亞細

支那財政問題

奉天問題 亞細

亞細

大臣
次官

楊

8206 暗 100

奉天問題

本署著 大正十五年八月二十六日 后九、

幣外務大臣

吉田総領事

第五〇號

往電第四七號ニ関シ

其後奉天西相場ハ奉天官憲ノ壓迫 張家口口領特
産出廻リ期切迫 其他対日借款譲等ニ依リ漸次恢
復シ本二十五日ニハ三百五十ヲ以テ寄付キ三百
七、八十元ニ落着キタルガ之ヲ七月末五百八九
十元ニ比較スル時ハ一ヶ月ナラスニテ二百元ノ
即騰トナリ物價評定ノ基準金ノ破壊セラレタル

門3
類4
項3
號

會文人情條通歐亞細亞
計書事報約商米

寫送先

楊、支那、奉天、問題

一方前段既報ニカ、金幣所持禁止令ニ基キ金
票建値不能ニ陥リ取引建値ノ依レベキモノ全ク
失ハレ居ル現狀ナルガ在ハ独リ邦商ノミナラズ
支那側商民ニ対スレハ大打撃ニシテ元ヨリ看
過シ難キ処一説ニ依レバ支那官憲ニ於テハ斯ノ
シテ昂上ケラレタル奉票ヲ以テ軀テ特産期ニ於
ケル金西買入ノ資金ニ供セント下心ニテ奉票ハ
全ク奉天官憲ノ一賭博ノ目的物ニ化セリトナス
モノアリ在ハ餘リニ極端ニ走り穿テ遺ギスリト
スレモ奉票ノ亂上下ハ金幣取引禁止ト共ニ彼我
ノ取引ヲ阻礙シツ、アルハ現實ナル實狀ナリ
在支公使、關東廳長官、哈爾濱、吉林、長春、鐵嶺、
遼陽、安東、牛莊ハ勢也

石山久松の日記

奉天 西通

商

8206 暗 100

奉天 奉天

本署 奉天 正十五年八月二十六日

XB

幣外務大臣

吉田 奉天

第二五〇號

往電第二四七號ニ関シ

其後奉天票相場ハ奉天官富ノ壓迫 張家口領特
産出廻リ期切迫 其他対日借款譲等ニ依リ漸次恢
復シ本二十五日ニハ三百五十ヲ以テ寄付キ三百
七、八十元ニ落着キタルガ之ヲ七月末五百八九
十元ニ比較スル時リ一ヶ月ナラズシテ二百元ノ
昂騰トナリ物價評定ノ基準金ノ破壊セラレタル

一方前段既報ニカ、金幣手持禁止令ニ基キ金
票運送不能ニ陥リ取引建位ノ依レベキモノ金ノ
失ハレ居ル現状ナルガ在ハ独リ邦高ノミナラズ
支那側商民ニ対スル一大打撃ニシテ尤ヨリ 着
過シ難キ処一説ニ依レバ支那官富ニ於テハ斯ノ
シテ昂上ケラレタル奉天票ヲ以テ航テ特産期ニ於
ケル金西買入ノ資金ニ供セントシテ心ニテ奉天票ハ
全ク奉天官富ノ一賭博ノ目的物ニ化セリトナス
モノアリ在ハ餘リニ極端ニ走り穿テ過ギタリト
スレモ奉天票ノ乱上下ハ金票取引禁止ト共ニ彼等
ノ取引ヲ阻礙シツ、アルハ現實ナル事實ナリ
在支公使 關東廳長官 哈爾濱 吉林 長春 鉄嶺
遼陽 營口 牛莊 へ知らせ

血

8142 平

本署發

大正十五年八月廿六日 前七

奉 平

本署外務次官

関東廳警務局長

支那側ニ拘禁中ノ 錢莊業者ハ未ダ
釋放セス奉天城由ニアリテハ今尚時々
帳簿検査ヲ行ヒツツアル為 錢莊
業者ハ何レモ閉業セス各地ニ避難シ
タルモノハ 避難先ヨリ密ニ店員ヲ帰
奉セルメ支那側ノ空氣ヲ監視ヒツツア
リ亦長春城由テニアリト稱スル

錢莊業者ハ暴ニ拘引銃殺セラレ
タル力其財産五百萬圓差押ハル分ヲ
没収スリ其他各地共不安未ダ去ラ

和印表紙



8/98 年 75

関東廳長
木村 著

大正十五年八月二十六日第六一〇

手 印

印

出測外務次官

関東廳長

(親展)

本日奉取引所ニ於ケル録在取引高値ニ九〇圓
容値三七六圓 出来高五二五〇〇〇圓ナリ

通商局

普通第二七五號

大正十五年八月二十一日

綴込名

在安東

領事 西澤義



外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

奉天票暴落ノ安東ニ及ホセル影響ニ關シ
續報ノ件

本件ニ關シ當地ノ日支取引カ殆ト鎮平銀及金票建ニ限ラレ支商ト雖モ奉票ヲ所有スルモノ尠ク其ノ流通ハ地方農民又ハ支那雜貨商ノ店頭小賣並ニ支那人同^士ノ勞働賃金仕拂等ニ使用セララルノミニシテ奉票暴落ニ依ル邦商直接損害ノ大ナラサルハ本年三月三十

在安東日本領事館



化

日附普通第一一〇號拙信並六月十五日附普通第二〇六號(六月十日)日附奉領第一一三號寫)ヲ以テ報告ノ通りナル處其ノ後奉票ノ低落ハ依然トシテ革マス旁銀安ノ傾向ハ益々輸入貿易ヲ不利ニ導キ之ヲ最近三ヶ月ニ於ケル綿糸布及砂糖ノ當地輸入額ニ付海關統計ニ徴スルニ左記ノ如クニシテ五月ニ於テ綿布輸入高七千疋台ノモノ六月ニ入りテ二千担台ニ激減シ綿糸ニ於テハ五月ニ於テ二千担台ノモノ六百担台ニ同様急落シ砂糖ニ於テハ六月ノ輸入高ハ四月ニ比シ大差ナキモ五月ニ比セハ半減シ今後尙奉票ノ回復セサル限リ當地方ノ輸入貿易ニ大ナル影響ヲ與フルモノト思料セラル尙奉票暴落ノ及ホスヘキ影響ニ關シ爲念取調タル處ニ據レハ管内商租件數大正十四年十月現在六百一件中小洋票ヲ以テ商租シ居ルモノ六九件九千五百六十一元ヲ算スル處孰レモ猶相當ノ期限ヲ有

在安東日本領事館

外務省文書
第 29 號
15.8.28

支那側奉天票價格維持策ニ關スル件

件名

支那側奉天票價格維持策ニ關スル件

吉田奉天總領事 宛往信寫及送附候 敬具

大正十五年八月二十一日附奉 領第一五九號

外務大臣男爵 幣原喜重郎殿

領事 西澤義徳

附屬書類添附

在安東

普通第 277 號
大正十五年八月廿三日

綴込名 吉田奉天

通商局

在安東日本領事館

砂	糖	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	記	
							四	月
							三〇九三	正
綿	糸	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	記	
							五	月
							八七二	正
綿	布	大正十五年	大正十四年	大正十五年	大正十四年	大正十五年	記	
							六	月
							四九七三	正

(單位相違ノ爲メ大尺布ヲ除ク)

スルモ向後奉票暴落カ相當永續スルニ於テハ商租契約者ハ非常ノ
損害ヲ蒙ルニ至ルヘク一部移住鮮人間ニ於テハ早クモ此ノ問題ヲ
憂慮セルモノ在リ此ノ種ノ問題モ亦奉票暴落ノ影響トシテ看過シ
難ク豫メ何等對策攻究ノ必要アル次第ナリ
右御參考迄報告申進ス

奉領第一五九號

大正十五年八月二十一日

在安東

領事 西澤 義 啓

在奉天

總領事 吉田 茂 殿

支那側奉天票價格維持策ニ關スル件

本件ニ關シ八月十七日附合領第八九號ヲ以テ御來示ノ次第アリタル處兀來當地附屬地内取引所ハ鎮平銀ノ取引ニ限ラレタルヲ以テ何等今回支那側對策ノ影響ナキ處本件ニ關シ今回支那官廳金融維持ノ遣口ヲ取調ヘタル處ニ依レハ東邊道尹公署ニ於テハ奉天省當局ノ金融整頓命令ヲ奉シ曩ニ各機關ノ首領ヲ道尹公署ニ召集シ會

在安東日本領事館

購ヲ開キ奉票價格ヲ小洋一元對奉票四元金一圓對奉票四元三十錢

見大洋一元對奉票四元五十錢トシ此ノ價格ヲ超過スルヲ許ササルコトニ決定シ且ツ道尹ヨリ警察廳長ニ命シテ私服偵探ヲ市内外ニ派シ内査セシメ若シ此ノ價格ヲ超過スルモノアラハ金融紊亂罪ヲ以テ直ニ逮捕處罰スヘシト嚴命セル趣ナルカ之ニ基キ商務會ニ於テハ小洋百元對奉票三百九十五元ノ相場ヲ發表セル處賣手ナク奉票ト現貨トノ取引ハ停頓シ各錢莊トモ不買賣ノ現象ヲ呈シ之カ爲メ平常一日五萬元内外ノ實需取引ヲ有セシ支那街銀市ニ於ケル奉票ノ出來高モ千元乃至二千円ニ激減スルニ至レリ又雜貨商ニ於テモ購買者カ公定價格ヲ以テ代金ヲ支拂ヒ之ニ依ツテ損失ヲ招カンコトヲ恐レ物價ヲ値上シ以テ損失ヲ免レントシツツアル狀態ナリ右御參考迄通報申進ス

在安東日本領事館

本信書送附先 外務大臣 長春、鐵嶺、牛莊各領事

在安東日本領事館

王様

通商局 通商局
秘書公第百四十六號

大正十五年八月二十一日

在奉天

總領事 吉田



綴込名

第二課

印 8.23

通商局第課

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

支那官憲ノ金建取引禁止ニ關スル件

本件ニ關シテハ往電第二四二號ヲ以テ不取敢概況報告申進置キタルモ
支那官憲ニ於テハ幾キニ奉天票カ五百元ヲ突破シタル際票價吊上ケ策
トシテ四百三十元ヲ公定相場ヲ發表シ現貨交易所ニ於テ右公定相場ヲ
以テ一日金五万圓(一人一日ノ制限三百圓)ツツノ現出ヲ開始シ一面

外務省文書課
受第 58 號
15 8.26

印 8.26

一般支那人ニ對シ金銀並ニ現大洋ヲ運搬トスル買賣取引ヲ禁止シ大
テ票價ノ公定相場ヲ三百九十五元ニ吊上ケタリシモ金運取引ハ暗々
ニ行ハレ票價低迷ヲ懸シ得サル爲メ支那官憲ハ種々壓迫ノ度ヲ加
ハテニ銀鈔業者ヲ逮捕シ昨十九日內五名ヲ銃殺シ尙引續キ銃殺ヲ繼
行スハシ等ノ宣傳ヲ爲スニ至リ今ヤ省城内外ノ銀鈔業ハ悉ク閉店又
ハ休業シテ離ヲ免レツツアリ爲メニ華商等ハ前記交易所ニ於ケル現
貨賣出シ以外全ク金銀ヲ入手スルノ途絶ハ而モ右交易所ヲ利用セン
トセハ八月八日(舊曆七月一日)以後取引ノ爲メニ要スル金貨交易
ハ金運取引禁止命令以後ノモノニ該當シ命令違反ナリトシテ莫索ニ
懸セス八月八日以前ノ取引ニ係ル金銀所要ノ交易ニ付テモ一日五万

圓ノ制限中大部分ハ兵工廠及被服廠ノ優先交易ニヨリテ控除セラレ
市民ハ一日一人平均五十六圓見當ノ金銀ヲ入手シ得ルニ過キス從
ツテ華商對邦商團ノ諸取引ニ就テモ官憲ノ迫害ヲ恐レ官命ヲ極トシ
テ金運取引ヲ峻拒スルニ至リ新規契約ノ絶無ナルハ勿論既契約品ノ
受渡並ニ寶應金ノ回收等非常ナル影響ヲ受クルニ至リタルニ付支那
側ニ對シ金運取引禁止撤廢方ニ關シ嚴甚交渉ヲ開始シタリ右報告ス

本信寫送付先 在支公使 在滿各領事並分館主任

通商局

公第六四九號

大正十五年三月二十一日

在奉天

總領事 吉田

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

金融取締條例發布ノ件

本月十七日附公第六三九號ヲ以テ報告申進置タル通張作霖ハ奉票取締ニ關シ嚴重ナル布告ヲ發シタルモ其後實際ノ效果ナキニ顧ミ今回更ニ大略左記ノ通金融取締條例ヲ發布セルカ右條例中特ニ第一條及第三條ニ關シテハ去二十一日附機密公第六四六號ヲ以テ報告ノ通明ニ經濟共通ノ精神ニ悖リ且邦商ノ利害ニ重大ナル影響ヲ及ホス儀ニ付目下支那側ニ對シ同條例撤廢方ニ付嚴重交渉中ナリ

在奉天日本總領事館

在奉天日本總領事館

三月二十一日
外務省文書課
交第 659 號
15 8.28

右報告申進ス

記

金融取締條例

- 第一條 銀行錢號ノ現洋金票ノ手持ヲ禁止ス
- 第二條 官吏ノ投機空賣買ヲ禁止ス
- 第三條 現大洋ヲ携帯シ省境ヲ出ツル時ハ五元ヲ以テ限度トシ五元ヲ超過スル時ハ密輸ノ罪ニ問フ
- 第四條 銀行錢號錢莊錢卓等投機空賣買ヲ爲シタル時ハ經營者ヲ處罰スル外其ノ營業ヲ停止ス
- 第五條 支那人ト外人共謀シ現大洋ヲ省外ニ輸送シタル時ハ支那人ト外人トヲ問ハス金融紊亂ノ罪ニヨリ處罰ス
- 第六條 暴利ヲ貪ルノ徒ハ直チニ憲兵司令部或ハ警察廳稽查處ニ引渡シ詳細訊問ノ上處分ス

在奉天日本總領事館

第七條 軍人ニシテ上項ノ行爲アリシ時ハ逮捕シ軍法處ニ引渡シ處分ス

第八條 官吏ニシテ投機買賣ヲ爲シタル時ハ長官ニ於テ直ニ該官吏ヲ主管官署ニ引渡シ處分スヘシ若シ隱匿シテ引渡ササル時ハ該長官ヲモ同等ノ罪ニ處ス

第九條 官署ノ出納ヲ司ル官吏ニシテ公金ヲ利用シ私利ヲ貪ル行爲アリタル時ハ他ノ犯人ヨリ罪一等ヲ加フ

第十條 謠言ヲ流布シ民衆ヲ誤惑シタル時ハ金融紊亂ノ罪ニ依リ處分ス

第十一條 京奉、奉海、四洮、洮昂、東省、錦朝等ノ交通機關ニ命シ現洋銅元ノ密輸犯人ヲ逮捕セシム

第十二條 銀行錢號ニ多額ノ現大洋金票（五千元以上）ヲ預金シタル者アリシ時ハ該銀行錢號ハ所管警察官署ニ報告シ警察官署ハ

在奉天日本總領事館

該現大洋金票ノ出處ヲ調査シ密輸ノ行爲ナキヤ否ヲ明カニス

第十三條 軍人、警察官、憲兵ニシテ多額ノ現洋金票ノ密輸者ヲ逮捕シタル時ハ半額ヲ官署ニ納メ半額ヲ逮捕者ニ賞與ス

第十四條 人民ニシテ現洋金票建ノ商品ヲ購入スル時ハ東三省官銀號所定ノ相場ニ依ルヘク若シ違反シタル時ハ嚴重處分ス

第十五條 商埠地ヲ經過スル各種車輛ニ對シテハ特ニ調査シ以テ現大洋密輸ヲ防止スヘシ

第十六條 各銀行錢號ノ手持現大洋金票ハ總テ東三省官銀號ノ公定相場ニ依リ賣出スヘシ

第十七條 本條例ニ若シ不備ノ點アリシ時ハ隨時修正ス

第十八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ實施シ金融原狀ニ復シタル時之ヲ廢止ス

本信寫送付先 在支代理公使、沿線各領事

在奉天日本總領事館

8236 (4) 575 國東廳發
本省着 大正五年八月廿七日 前
前

中 不 漢 通

出 洲 外 務 次 官 國 東 廳 警 務 長

(至急親展)

廿七日奉天城内張作霖直署ニ係ル穀物肉屋
支那人支那人某ガ奉票ノ空賣買ヲ爲シタル事
發覺時之ヲ拘禁シ銃殺處分ニ付ス可シトノ
説有ル爲目下救放運動中ノ趣ナリイナカ
商務會長ハ各商ノ人ヲ召集シ物價引下ゲノ
命金ヲ爲シタル處奉天城内靴高某ガ右命金
ニ及セリトテ廿六日拘禁セラレ取調ノ結果罰金貳千
元ニ處セラレタリ廿六日奉天取引所ノ奉票出来高

五二〇〇〇元 現物三七二元 先物三七六元ノ成績
ヲ見タルガ高ホ各地ニ避難セシ商業者等ノ帰来
見込立タズ從テ取引ノ旧態ニ復スル迄ハ相違ハ
時日測セラレアリ

奉票問題ノ紛糾ニ因シ今廿七日奉天ニ於テ
市民大會開催ノ計畫有ルガ時節柄取締ノ
要有リト認メ豫メ主催者ニ對シ日支國交ニ支障
有ルガ如キ言論ヲ慎ム可キ様嚴守シ當日ハ警
察官ヲ立會センノ違算無キ様スル旨

外務省文書課
第16325號
15827

急務

當分留置

奉天票暴落、取引所立會中止
知名實業家(支那側ヲ含ム)ノ
感想聴取ノ件(第一報)
大坂中華總商會々々長 李亨 慰中
奉天票暴落、原因ハ張作霖ガ己ノ勢力擴張ニ急
テ、余リ救回ニ涉リ開戦ヲカシテ同奉天票ノ
為シタルノ結果ナルコトハ等々在リ、
款ハトコロタルモ新テハ、報導ニ依レバ怖モ

同地方ノ錢莊及金融業者ノ所為ナルカノ如ク解
レタルニマ之等業者ニ對シテ高圧的態ヲ以テ、
取締ニ從事シ居レル模様アリ、勿論金融業者ノ模
範的策動ハ幾分暴落ヲ助長セシメタルモノアル
ベシト雖之ヲ以テ彼等ニ全責任アリト云ハスガ如
キハ誤レルノ甚シキモノナリ、張作霖タルモノ
此ノ際覺醒シ適切ナル措置ヲ講ジテ他國ノ
非難ヲ受ケルガ如キ手段ニ依ラズ速ニ回復
ニ努メラレン事ヲ望ム

日東郵船會社大坂支店長 山本幸枝
奉天票ハ對外價任薄弱ニシテ、暴落ハ今日ニ始マ
リタルコトニ非ズ從テ今回ノ事件ニ對シテモ對支
貿易業者ニ直接影響ナキハ勿論、何等具作及
影響ヲ見ズ元來奉天票ガ斯ク暴落スルハ張作
霖ノ財政ニ對シテ難ヲ暴露セルモノニシテ準備金一
千萬圓ニ對シテ億圓ノ奉天票ヲ發行セルガ如キ

外秘第一三四五號

大正十五年八月

政府知事 中川 望

第二課

第一課乙

中川 望

通商局第二課
外務大臣 濱口 雄幸 殿
外務大臣 幣原 喜重郎 殿
商工大臣 片岡 直温 殿
指定各廳府縣長官 殿

逕達

逕達

序票ノ倍ヲ失ヒ暴落スルハ当然ニシテ金融ノ回復セザ
ル限り人オコシテ如何トモ能ハズ然ルニ張作霖カ
以テ之ニ臨ミ或ハ取引所ノ取引ヲ中止シ關係商人
ニ暴カヨ加ヘ又ハ之ヲ殺害スル等實ニ言外ノ沙汰ト
言フニシテ其對支貿易業者ノ憂々トシテ張ノ暴政ニ
ヨリ將ニ末日支ノ國交上ニ惡影響ヲ示サザルヤ
一事ナリ以テ此點ニ関シテハ當局者ノ手腕ニ依リ
日モ速カニ平靜ニ復級セシメラレシムコトヲ望ム

市川 認
藤田銀行取締役
奉天票暴落ニ對シ張作霖ノ執レル所圧手段ハ止
ムヲ得ガルトコトハシシテ張作霖ニシテ山東ヲ
守リ北京ニ戰ハレバ經濟的ニ安國ナリシテアランモ
我勝ニ棄シ飽迄國庫ト雄ヲ決セントシツ、アル
狀勢ニテハ吾温荒セル不換票暴落ハ當然ノ
級結ニシテ戰爭ニハ勝ヲ占ムルニ經濟破レシ
トシ遠級、如ク非常手段ヲ執ルノ止ムナキニ至リ

シモノヲラン我一流ノ實業家ハ夙ニ此點ヲ考慮シ
警戒ニシテ我ヲ重ネズシテ以テ之等ノ實業家ハ吾
影郷者ヲ交シテ事僅クアランモ寧ニモ流ノモノニ及ホス
謂高権地域ハ獨ニ及支那商人ニ依リテ漸次不
ニ縮小セラレタル現況ニアルヲ以テ我ガ貿易經
濟ノ大体ヨリ見テ大ナル影響者ハ受ケザルベシ
國交上ニ関シテハ我敬々高権ヲ侵害シタリトセバ之
レニ抗議シ最善ノ措置ヲ採ララルベカニス

大阪商業會議所書記長 高柳松一郎
北支那ニ於ケル商取引ノ全部ガ凡テ奉天票使用ヲ強制
セラレテ居ル以上同票ノ変動ハ我國ノ貿易上ニ甚大ナル
關係ヲ生ズルモノナルコトハ申スマデモナク當商會
議所ニ於テモ既ニ同票ノ下落ニ基キ取引ノ中止又ハ延期
等ニ関スル幾多ノ通知ヲ接受シテ居ルガ實ニ困ツタモノデ
間々所ニ依リハ張作霖ハ之ガ善後處置トシテ極力ノ壓迫

強制トニ依リテ威カシクトモ、此大勢ヲ如何トモスル
祿テアルガ到底斯様ナリ可成テ、此大勢ヲ如何トモスル
事ハ必ズ来ナイテアラウトモ、此大勢ヲ如何トモスル
或対内貿易ハ全ク行詰ラテ、此大勢ヲ如何トモスル
此際外交當局ノ断案ヲ以テ、此大勢ヲ如何トモスル
デアリマス

東洋綿花株式會社取締皮 山崎 一保

奉天西票暴落ニ端ハ第一奉天直戰ノ時ニ始マリ爾来今
日ニ至ルマデ動搖シ安定シタルコトナレ為ニ對滿貿易
易ハ多用需要責ニ止マリ殆ド取引中止ノ如キ
警戒振リテ以テ取引ニ圓滑ヲ欠クノ打撃ヲ
アルモ今更ラ高取引ニ就テハ狼狽セアルモ奉天
天票暴落ガ枚様思惑ニ據ルト看做シ張作霖ガ
之等ノ業者ニ圧迫ヲ加ヘタルハ不法ノ際アリ一情
報ニ依リテ國民軍ヲ恢復スル露國政府ハ聯名
軍ノ結束力ヲ破壊セントスルトノ企テ以テ奉天ニ

宣傳員ヲ派遣シ奉天軍ノ敗退ヲ他無宣傳ヲナシ
コトヲ根本ノ原因トシテ、此大勢ヲ如何トモスル
惑トシテ考ヘラシメ、或ハ奉天政府崩壊ノ前兆トモ
見ラレザルニモアラズ
張作霖ガ我警察権ヲ侵奪スルガ如キ措置ヲ執リタル
遠因ハ吾對外政策ノ余リニ張作霖ヲ保護増長
セシメタルニヨリト、他面此種ヲ利用セントスル英
米ニ國ノ使族モホ見逃スベカラサルコトナリ吾人貿易
業者トシテハ張作霖ガ軍事行動ヲ廃止シ專ラ保境
安民ノ政策ニ委メンコトヲ希シ、此大勢ヲ如何トモスル
外使臣ハ宜シク其實情ヲ調査シ吾國権ヲ傷ムルガ如
キ彼ノ措置ニ對シテハ強硬ナル措置ヲおケコトヲ要ス

特高第...
大正十五年八月二十三日

山口縣知事大森吉五郎



亞細亞
第一課
逕達名
李

内務大臣 濱口雄幸 殿
外務大臣 幣原喜重郎 殿
指定廳 府縣長官 殿
中村内務事務官 殿



張作霖外交顧問、言動ニ関スル件
左籍北京市安内西魏二四
當時東京北谷川込第方天所五。
明大教授 佐藤博士 趙 欣 伯 当三十七年

左在在月二十日午許七時入港、因釜連絡船憶毒
北三渡来セルヲ視察スルニ在在月一日夏季休
暇ニ北京ニ帰省セルモノナルカニテ、張作霖
外交顧問ニ就任方、交渉ヲ受ケ、甚リタルヲ以テ
今回張ト會見ノ上、徐々ニ受諾シ、跡始末ノ為
メ一應帰来セル趣ニテ、山陽ホテルニ少總ノ上、第八列
車ニテ東京ニ向ヘルヲ休總中、左記ノ談ヲナシ、
左及申(逗)報候也

左記

一八月十六日張作霖ト會見セルカ、左氏ハ奉天票下落
防止策トシテ、日貨首月ニ對シ、三百九十五元トシ、之
ニ違及スルモノハ、嚴罰ニ処シ、在在リ又大倉崑八郎
氏ニ打電シ、五百万円ノ借款ヲ下シ、之ヲ以テ市場

予奉天票ヲ買入レ信用ヲ回復セト計畫シ茲レモ未タ大倉氏ヨリ互電ニ接セラル以テ今回余ノ東上ノ際交渉ナストセリ

現在取引所ニ於テ行ハル相場ハ四百八十元内外ニシテ支那人下ノ賣買相場ハ四百五十元内外ナリ一張郭戦前ノ標準相場ハ三百元位ナリ張氏ハ別ニ日本警察推テ侵害シタル事案ナリ既ニ処罰セルハ全部支那人ニシテ而モ日本附屬地ニ於テ処罰セルコトナシ新法令ヲ設ケテ処罰スル所以ニ取引所ノ何等ノ事物ナシテ空ニ奉天票ノ價格ヲ決定シ財界ニ要領者ヲ及ホスヲ以テ之ヲ取締ノ為ニ採ル手段ニ外ナラス

一 張氏ノ暴亂ニ滿州ニ於テ日貨排斥ノアリシレ際之ヲ防止策ニ盡カセリ所アリタルニ日本ハ今回奉天票ノ下落ヲ防止策ニ對シ何等援助ヲ為サハズ

張氏ハ頗ル下滿ヲ抱キ在レリ今回奉天票ノ下落ノ原因ハ實ハ奉天郭奉國兩戰ニアルモ取引所負ノ按機賣買モ大ナル原因ナリ

一 今回總領事ヨリハ正式抗議ヲ受ケタルコトナシ日本警察權ノ侵害ヲ為セル際ハ抗議ノ材料トナルモ現在張氏ハカニ實例ヲ作りレコトナリ別法ニ依リ施策ノ途ナキヤトノ警告ヲ受ケタルニ不遇張氏トシテ現在採リタル方法ヲ最善策トシ又大ニ良キ結果ヲ得ツナリト信シ居レリ自今ハ出來得ル限リ日本ハ滿州ニ於ケル商權ヲ獲得シ盡力ニシテ考ナレモ商權問題ニ交換的ニ支那ニ於ケル日本ノ海外権撤廃ヲ要求スル考ナリ

云々

電信課長

大臣
次官
楊

亞細亞
通商
條約
人情
文書
會計

寫送先

件名
續込名
奉天

8月4日
奉天
本署
丁未年八月二十七日
本口
西

幣
奉天
吉田

第二五一號(二十七回)
本官發北
第八七號(二十七回)

中
奉天省長
借款
但

是か擔保其他ノ案件、知ノハ大倉組ノ希望申
書ニ依リ更ニ奉天省長ノ趣ニカキ、此ノ大倉
組ノ願中ノ確信ニ居ルハ日本各地奉
天問題ノ解決ニ在リ奉天人ノ反張熱口口
居ル、經ニ各地支店、於テハ暫ク觀望中(觀望
中ト言フハ各地支店長ノ言フ處ニ大倉本店
ノ應ルニ奉天省長ノ中國ノ不明)念、ノ談、
ハ外務大臣ノ許シ得ルハ切論ナリ
猶太人借款使進ハ明カニ居ルハ心ニ奉天省長
ハ一時ハ奉天省長ノ又省長書發請願始ト
ノ關係ハ好善無二云ク
本官發北
大倉、新報

3-1194

0191

A Manchurian Canute.

There must be some fitting precedent in Chinese history and literature to draw upon—for China unblushingly admits that she did everything the West has ever done and did it centuries earlier—but the picture that is called to mind by the reports of Marshal Chang Tso-lin's attempt to govern inflexible laws with machine-gun bullets is that of King Canute. Canute the Great has gone down in history with the general public as an arrogant ruler who believed himself able to command the tides of the ocean until he tried the experiment and was disillusioned. It is a false picture of one of the greatest Kings that England has ever known. Canute did command the rising tide of the Thames at Westminster to recede, but he did it as an object lesson to his courtiers and retainers and to prepare their minds for the forthcoming journey to Rome and submission of their Northern wills to the dictates of the Catholic Church and the Holy See.

In Russia the Communists have attempted to destroy the laws of economics which are beyond man's reach and have failed miserably. Marshal Chang Tso-lin, confronted by a depleted treasury and in need of funds for the conduct of his warfare, is attempting to apply the same argument—that of military force—to dollars and yen that he uses against his enemy Tschun on the field of battle. It is an indication of unbalanced judgment so great as to approach insanity. For a time he succeeded in a way by forcing shop-keepers and others to accept the almost worthless paper currency he issued for its printed face value, but that game is almost up and, besides, it is useless in the purchase of foreign goods where the sellers are not confronted by the Mukden dictator's firing squads.

It is quite likely that the exchange houses of Manchuria have played with the falling Fengpiao and have made a neat profit thereby, but Marshal Chang's summary action in shooting them down will

never start his paper money on a climb back toward par, nor will it inspire confidence abroad in Manchuria's credit. His order restricting the maximum daily exchange transactions in gold notes to ¥3,000 has brought Sino-Japanese trade to a standstill, and every other arbitrary measure taken by him has served to increase and aggravate the situation which he is seeking to remedy. One of Chang Tso-lin's greatest assets in the past has been the executive ability displayed by him in utilizing the service of experts. When, in the spring of 1922 he seized the Peking-Mukden Railway, he did not attempt to move his troops south of the Great Wall, but called in the railway's executives, told them he wanted so many men at such and such a place at a particular time, and then sat back and let those trained railway men dispatch the trains and move the troops. He has departed from that policy in the present instance, and is attempting to dictate the financial situation from the depths of his ignorance just as he dictates to his subordinate army commanders. The tide came on up the Thames despite King Canute, and the financial and economic flood in Manchuria is engulfing Chang Tso-lin and his Government.

Chang Tso-lin is a man who has missed his chance. Every honest adviser he has had for many years has consistently preached the policy of leaving Chinese politics alone and concentrating upon the economic development of the Three Eastern Provinces, in themselves an empire that should be sufficient to satisfy the ambition of any man. Chang himself has preached this doctrine—and has practiced the reverse. The sorry plight into which both Manchuria and Chang Tso-lin himself have now been precipitated by his meddling in affairs south of the Great Wall is the best proof of the soundness of this advice.

The time has passed when the Mukden warlord could have put such a policy into practice. He is hopelessly involved in Peking politics now, but, far more important, he no longer commands the respect

and obedience of the dwellers in the Three Eastern Provinces. The near-success of General Kuo Sung-lin's revolt last winter shook forever the confidence in the loyalty of Marshal Chang's military machine, while the foolishly headlong course he has since taken has given rise to more than suspicion of his sanity and judgment. What business man would care to have a Governor developing a country's economic resources when that Governor executes without trial the heads of exchange houses because his currency is obeying economic laws? Wang Yung-chiang, Baron K. Okura and others who are vitally interested in the welfare and prosperity of Manchuria are still preaching the necessity of abandoning warfare and of concentrating on the development of the Three Eastern Provinces, but Chang Tso-lin is not the man who can do this even if he would. He has missed his chance.

Only in attempting to control forces which are beyond man's power does Marshal Chang resemble King Canute. Canute, too, was a warrior, but he was one of the wisest and ablest administrators of all times. Driven from England, he returned again to conquer the country, but, this done, he set himself the task of unifying and promoting the peace and prosperity of his Anglo-Saxon subjects. Heavy taxes were levied, but heavy taxes were cheerfully paid because every son of the land knew that the money was being spent for the benefit of the country. The King of alien birth did all possible to identify himself with the interests of his island subjects, going so far even as to embrace their religion and to put his own wife away that he might take as Queen a daughter of the land. It is rather a travesty that Canute has come down to the present age as the man who attempted to control the tide and failed. That attempt was made as an object lesson for others of his own and all men's limitations, an object lesson that Marshal Chang Tso-lin sorely needs, whether he can find a similar parallel in Chinese literature and history or not. No finer hero could be chosen by Marshal Chang than this early King of Northern Europe, himself ambitious, himself a warrior and a conqueror, but above all an able administrator who realized the absolute necessity of building up a nation and a people through the arts of peace rather than of war.

ア
ト
バ
ク
イ
ザ
ー
新
聞
大
正
八
年
八
月
二
七
日

奉
天
崇
正

Yab

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

奉平 昭平

△奉天在留邦人大会

聯合通信奉天三月六日發

衆作務氏の無謀極なる金融

市場は道と之に伴ふ日商買

易の杜絶と憤慨して歐起を在

留邦人各商工団体商業大会

議所在留民会地方委員会

以下各機関聯合主催の奉天

在留民大会は愈々今年六月

午後六時半より公会堂に於て

開会を以てが時局材料未開有の

大盛況を呈し入場し得ざる群衆

下見山の杜絶外に溢れた

拾

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本新聞聯合社發行)

ハチノミヤノミヤノハチノミヤノ
我が政府として断乎たる態度
に出せしめ速かに此等緊急の
問題を解決せしむべく其の美
行と期す。

決議

一我が國權の侵害を矯正して
將來の保障を徴し拘禁せる
邦人使用支那人を即時釈
放せしむること。

二我が金銀券と奔票との交換
を自由にして之に對し何等制限
を附せざることを。

三奔票と紙幣の約束せる

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信

(日本新聞聯合社發行)

美三千三萬の四

上海向リ為替ト対シ如何なる場

合シても其取組金額を制限

するに依リ時價相場に依リ

之を実行するに依リ及び邦人收

入の齊集を公定相場に依リ

現銀若しくは我が金銀券と

交換せしむること。

四遠ホト現大洋若しくは小銀貨

ト対する銀行兌換券條例を

制定し之を官憲の干渉圧迫

より独立せしめ一般取引を障

害からしむること。

右決議す。(日本新聞聯合社)

RENGO TSUSHIN SERVICES

聯合通信 (日本郵政省認可)

第三十號 (亞)

奉天廿八日發聯合通信

◎奉天の家賃値下命令

支那當局は奉天票公定相場を設定し次いで食糧品その他の物價調節命令を發したが本日更に家賃の値下げ命令を發した。其標準は現大洋建のものを奉天票建とし現在額の八割に値下げせんとするもので目下金融維持會が中心となつて調査中である。

八月廿八日着

Handwritten signatures and initials in the bottom right corner.



奉天
號
奉天
國納
始

大正十五年八月二十八日發

趙欣伯來談ニ關スル件

在奉天 吉田總領事

暗第一二六號

木村ヨリ

八月二十四日趙欣伯來省シ大臣次官及本官ニ對シ今般張作霖ノ法律顧問ニ任セラレ主トシテ東三省治外法權撤廢ノ準備ノ爲メ法制ノ調査並立案ニ當ルコトトナリタル旨並右任命ニ當リ張作霖ヨリ司法權ノ獨立尊重ニ付保障ヲ得置キタル旨ヲ語リタル後張作霖ノ傳言トシテ今次ノ錢莊取締ハ賭博的取引ヲ行ヒ奉天票ヲ暴落セシムル支那奸商ヲ處罰セシニ止リ何等日本側ニ迷惑ヲ及ホサムトスル趣旨ニ非ス

外務省

(已號用紙) 國納

又之カ爲メ日支貿易ヲ阻害スルカ如キ惧無キ次第ナルニ付右御諒解ヲ請フトテ曩ニ汪公使カ張ノ電報ニ基キ了解ヲ求メタルト同様ノコトヲ張ノ傳言トシテ申述ヘタリ

右ニ對シ大臣ヨリ日本ハ支那ノ治外法權撤廢ニ付特ニ同情ヲ有シ現ニ法權委員會ノ勸告案作成ニ付テモ右ノ趣旨ニテ當リ居ル處同委員會ノ空氣並日本ノ輿論ヲ見ルニ支那ノ治外法權撤廢ハ先ツ法制ノ完備セル地方ヨリ漸進的ニ實行スヘシトノ意見ニ傾キ居ルカ如ク旁々東三省治外法權撤廢問題ニ付テモ日本其ノ他ノ列國ハ好意的考慮ヲ加フルヘシト思考ス然ルニ奉天側今次ノ錢莊業者銃殺事件ハ事支那ノ法域内ニ於ケル支那人ノ處罰ニ止ル以上外國側トシテ敢テ抗議ノ限ニ非サルモ司法權ノ獨立カ治外法權撤廢ノ前提タルニ顧ミ如斯不

外務省

3-1194

0199

(已 號用紙) 園納

法措置ノ結果ハ自然列國側ヲシテ特ニ東三省ニ於ケル治外法權ノ撤
廢ニ躊躇セシムヘキハ勿論日本輿論ノ同情ヲモ失フニ至ル惧アリト
答ヘタルカ次テ本官ヨリ奉票暴落ノ原因並經過ヲ詳説セル後奉天側
ノ對策カ姑息的ニシテ何等根本原因ニ觸レ居ラス殊ニ今次ノ暴力措
置ノ如キハ本末顛倒ノ甚シキモノナルヲ措擱シタル處趙欣伯ハ同感
ノ意ヲ表シタル上奉天側トシテハ本件ニ關スル日本側ノ調査等ヲ參
考トシテ對策ヲ講究スルコト可然ト思考スル旨ヲ述ヘタルニ依リ本
官ヨリ奉票下落ノ根本原因等ニ付テハ奉天側ハ夙ニ吉田總領事並松
井顧問ニ就キ詳細熟知セル筈ナリト注意シ且法權ニ關スル大臣トノ
談ハ新聞等ニ洩ラササル様申聞ケ置キタリ
尙趙欣伯ハ若槻總理ニ對シテモ同様ノ趣旨ヲ陳述スル所アリタリ御

外 務 省

(已 號用紙) 園納

參考迄

外 務 省

奉天財政の救済に
日支合辦の銀行設立説

奉天銀行の停業は、東洋の金融界に多大の損害を及ぼし、又我々日本の事業家は勿論、在奉日人の利益も甚しく害に達して居るので、奉天財政の整理救済は我々東洋の銀行上、富強の急務と見られる。張作霖氏の顧問高橋氏が入京した使命の第一は、右奉天財政の救済策に關して、我々の協力を求めるにあると推せられるが、我々政府内の一節には日支合辦の銀行を設立して、我々の協力をしむべしと唱ふるものあり、又民間に於ても、此の説を支持するものあり、近々我三井の資本家が發起となり、資本家の組合が開かれる懸念である。

奉天 〆

夕刊 万朝報 大正十五年八月廿八日

奉天 〆

奉天票問題決議
在留民大會

「奉天信電」(廿七日發) 奉天票問題に對する在留民大會は、七月廿六日午後六時、奉天公會堂で舉行會衆席外に溢れる盛會であつた。議事奉天の如くである。

- 一、わが國の債権を許すに及ばず、奉天銀行の現行の保費を要求し、拘禁せる日本人使用の支那人を即時釋放せしむる。
- 二、わが金券銀券と奉天票との交換を自由にして、對して何等の制限を付せざること。
- 三、上海向け貨物に對し如何なる出納と雖も、その取組金額を制限するに及ばず、日本人所有の奉天票を公定相場より現銀もしくはわが新銀券と引替しむる。

東京日日新聞 大正十五年八月廿八日

公信第 二一三 號

亞細亞

第二課

綴込名

別紙添附

大正十五年八月廿三日

在鐵嶺

領事 田中莊太郎

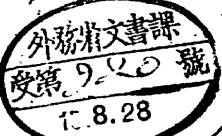


外務大臣男爵 幣原喜重郎 殿

大正十五年 八月廿三日 附奉天總領事宛奉領
第一七六 號寫送付

件名

一、錢鈔取引人壓迫ニ從事セル王憲兵營長ニ對シ開原警察署
ノ取レル措置ニ關スル件



手付
田中



奉領第一七六號

別紙添付

大正十五年八月廿三日

在鐵嶺

領事 田中莊太郎

在奉天

總領事 吉田茂 殿

錢鈔取引人壓迫ニ從事セル王憲兵營長ニ對シ開原
警察署ノ取レル措置ニ關スル件

本件ニ關スル佐々木開原警察署長報告寫別紙ニ通御參考迄不取敢別
添ノ通り送付ス

寫送付先

外務大臣、在支公使、長春、安東各領事

在鐵嶺日本領事館



開高警秘收第四〇八一號ノ一六

大正十五年八月廿一日

佐々木開原警察署長

田中鐵嶺事務官 殿

王營長事件ニ關スル件

王營長カ當署員ノ爲ニ凌辱ヲ受ケタル旨陳司令ニ報告シタル件ニ關シテハ奉天警察署長及奉天總領事館警察署長ヨリ王營長凌辱事件ト題シ屢次御通報ニ接シ王營長カ使命ヲ果シ得スシテ開原ヨリ退去ヲ追ラレ憤懣ノ極當署ノ取扱ヲ云爲スル其心事ノ大要ヲ察知セラル、所ナルモ當署ハ最初ヨリ凌辱ヲ與ヘタル事實ナク本件ヨリ凌辱ノ語ハ削除シ度キ希望ヲ有スル次第ニシテ八月廿日附奉高警秘收第九一七號ノ一奉天警察署長御通報ニ依リテ千々和憲兵顧問ノ語レル所ヲ見ルニ王營長歸奉後ノ報告ハ專ラ自己ノ不行蹟ヲ蔽ヒ且不成功ノ

在鐵嶺日本領事館

儘引揚ケタル理由ヲ補足センカ爲ニ當署ヲ派ユル者ニ外ナラヌ勿論時機モ時機事件モ事件ニテ附屬地官民舉テ不安ヲ懷キ且奉天官憲ノ暴政ヲ憤慨セル際ナレハ王營長ニ對スル當署員ノ應接振（小官カ應接シタルハ十二日午後三時一回ノミニシテ此際ハ初對面ノ挨拶ナレハ卓上ニ多少ノ設備ヲ爲シ待應遇ヲ厚クセリ）ハ漸次眞劍味ヲ加ヘ遂ニハ殺氣立ツニ至リ懲罰ノ態度ヲ缺クニ至リタルハ寧口止ムヲ得サルモノト認メラル、モ毆打流座等ノ凌辱ヲ與ヘタル事實ナク右唇下ニ負傷云々ノ如キハ支那人ニ有勝ナル自動的負傷ニ外ナラスト認ム又知人ノ宅ニ起臥中ト云ヘルモ間違ヒニテ王營長ハ既報ノ通り附屬地遊廓群仙書館ニ起臥シ頻リニ流言ヲ放チテ商民ヲ脅迫シ同行當時ハ圓通棧ノ帳簿査閱ニ到レル際ナリシナリ署員ハ固ヨリ日支商民一般ニ極度ニ昂奮セル際多少冷靜ヲ缺キタル言語態度アリタルハ免レサルヘキモ凌辱ノ事實ナキコトハ前述ノ次第ニ付奉天警察署長ヨリ機會アラハ右ノ要領ヲ千々和顧問其他關係方面ニ釋明方御取計相煩度右報告旁及依囑候也

在鐵嶺日本領事館